

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福祉会		
事業所名	大東GH あじさいユニット		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地の1		
自己評価作成日	平成29年7月10日	評価結果市町村受理日	平成29年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani_tru&sl_gvosyoCd=2172100832-00&Pr_efCd=21&Ver:si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年8月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食べたいものや行きたいところを会話の中で聞き取り、外出の機会が増えるよう努力している。料理が得意な方には作り方を教えて頂いたり、調理する場を作ったり、歌が上手な方にはリードして頂くことで、周りも明るい雰囲気となるよう関わりを持っている。入居されてからも家族、在宅時のケアマネジャーや看護師と連携し、グループホームでの生活が続けられるかや、本人家族にとってより良いサービスはあるのかなど、必要に応じ相談を行いながら提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初より事業所建屋内の多目的ホールや庭を地域の人々に開放している。いきいきサロンや自治会の会合が開催され、庭では地域の方がバーベキューをしたり、子供のラジオ体操があったりして、事業所が地域の交流の場となっている。利用者も一緒に楽しみ、事業所も地域の情報を得る場としている。清掃・資源回収・防災訓練などの地域活動に参加し、日常的に交流している。事業所の防災訓練には利用者・家族・地域・行政が参加し、訓練後は問題点などを話し合っている。地域と避難受入れの協定を結ぶなど、地域に根差した事業所である。管理者は職員の意見や要望を聞き、働きやすい環境を作り、職員は接し方など利用者一人ひとりに合わせたケアをして、安心した生活が送れるよう心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業目標を毎年作成し評価している。職員が目を通せる場所に掲示したり閲覧することで周知を図っている。毎月自己評価を行い、達成度の確認、目標の設定を行い実践している。	法人の理念を基に毎年事業目標を作っている。毎月自己評価をし、理念や目標が実践に繋がっているかなど会議で話し合い共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	カルチャーホールを地域に開放し自由に地域の方に使用して頂き交流の場を持っている。夏祭り参加や、土筆をもらったり顔を合わせるたび挨拶を行いつながりを大切にしている。	多目的ホールや庭を開放し事業所が地域の交流の場となっている。利用者は子供たちと一緒にラジオ体操をしている。清掃・資源回収・防災訓練などの地域活動に参加し、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の一員として自治会や水路掃除に参加している。介護予防教室を法人として開き地域の方々へ認知症や介護についての理解を得る場となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域の方・行政の方に参加いただいている。家族の参加も少しずつ交替し増えてきている。運営の状況や取り組み、課題となっている事を伝え、理解や意見を取り入れている。	家族・地域・行政が参加し、防災訓練時の提案や長寿会のメニューの要望、職員の健康や待遇のことなど、いろいろな意見が交わされている。出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や防災訓練に参加して頂き、日々の取り組みを伝えたり、訪問看護を利用するにあたり疑問点や生活が一変しないよう助言を頂いたり相談できている。	運営推進会議や防災訓練時に事業所の取り組みや実情を伝えている。訪問看護や生活保護に関する相談をして助言をもらったり、敬老会の景品の相談を受けたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い知識を得ている。日々の支援が身体拘束につながっていないか振り返る機会をもっている。自由に行動ができることを大切にし、言葉での制限を行っていないか、職員同士声をかけ協力しながら安全に過ごせるよう見守っている。	職員は身体拘束を理解し、拘束をしないケアを実践している。日々のケアの中で行動や言葉での拘束はないかなど勉強会で話し合い、互いに注意しながら実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	休憩を適宜とり煮詰まったりストレスを溜めすぎないように、職員同士で声をかけ合い業務に取り組んでいる。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方もおり、制度についての知識やGHとしての役割などを申し送りや会議で伝え周知を図り支援にあたった。関係者と話し合いながらその方にとって必要な支援方法を考えた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分時間を取り説明、不明な点を伺っている。双方がその都度受け止め納得できるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が参加頂く行事の際にはアンケートを配り、日々の中で気になる事や要望を頂いている。家族会を開催し思いを共有したり意見を頂いている。	面会時やカンファレンス時に意見や要望を聞いている。行事や家族会開催時にはアンケートを配り、出された意見は運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議を開き意見を聞いている。提案がある時は、その都度意見を伝えられるように連絡ノートを活用し業務に活かしている。	管理者は言い出しやすい環境を作り、連絡ノートや会議で意見を聞いている。人員配置や会議の時間変更・薬に関する事などの意見が出され、業務に活かしている。専門学校に行きたい職員には通える環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施し、勤務の状況や頑張りを上司が把握し賞与に反映してもらっている。休憩時間をしっかりとる取り組みやサービス残業を許さない取り組みなど続けて行けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体やGH会議で内部研修を行い、介護や認知症の病気の理解ができるよう学んでいる。職員が学びたい事や不安なことを集約し研修につなげている。人手不足で外部研修の参加は難しく課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換会や合同家族会に参加し交流をしている。運営や支援で困っているときには、相談したり工夫している点を学ぶことで質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行いADLや不安な思いの把握に努めている。生活歴から、得意なことや好きなことを知り、話のきっかけとしたりゆっくりと話を聞く機会を持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談では家族の思いや意向も確認している。自宅で暮らしてみえ場合には、在宅時のケアマネにも出席して頂きながら、家族が不安な思いを抱いたままとならぬよう配慮してきた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する際、本人や家族、保佐人の思いや状況から、緊急性やサービスの必要性を見極めている。必要に応じ他のサービスの利用することも含め検討を行ってきた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理を得意とされている方がおり、採れたてやもらった野菜での料理法を教えてもらったり、実際に調理してもらうなど力を発揮できる環境、関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「電話をしたい」と話される時にはその都度支援している。本人から希望がある時には病院や外出に機会を作って頂いている。日頃より思いを伝えたり聞いたりし共に生活を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやり取りが続けられるよう声をかけ今までも関係が途切れないよう支援してきた。行きつけや知り合いの喫茶店へ行けるよう後見人に協力を頂いた。	利用者との会話や家族などの情報から把握している。家族等の協力を得ながら、馴染みの美容院や喫茶店に行ったり、手紙や電話のやりとりを支援したりして関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で電気やリモコンの操作が分からない時には助け合って行われたり、仲の良い方に家族の心配や不安を話すことで安心される場面がある。話の内容や表情を見守っている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅、ケアハウスへ生活の場を移す時にも在宅時にお世話になっていたケアマネや後見人と連携をとり、スムーズに移れるよう支援し、退居後も相談を受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとり暮らし方の希望を聞いている。居室でゆっくり過ごしたい方、話好きな方、得意な家事を行いたい方など様々で、思いに沿えるような機会を作ったり声をかけている。	日々の会話や家族の情報などから思いや意向を把握している。仏壇に花を供えたい人には花摘みの声掛けや、絵を描きたい人には画材を用意するなど、一人ひとりの思いに沿えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の流れや環境の把握に努めている。役場に勤めていた方が仕事の心配をしている時の声のかけ方や、申し送りに一緒に参加するなど安心できる方法を考え実践している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	寝起きする時間はその方に合わせている。食事に限らずお腹がすいた時に食べられる習慣のある方や、朝はコーヒーを飲まれる方には続けられるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向思いを聞き取っている。出た意見や課題に対して、必要であればかかりつけ医に相談するなどして計画を立てている。本人家族の思いをその都度聞くようにしている。	毎週モニタリングし、会議で課題を相談・検討している。本人・家族・担当職員が参加してカンファレンスを行い、医師のアドバイスを取り入れて介護計画を作成している。心身の状態の変化に合わせ、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランをすぐ目のつくところに保管している。週に一度モニタリングを行い、現在の支援方法は良いか、新たな課題はないか見つけ直す機会となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の取り巻く状況を見ながら、必要に応じて介護保険ではない外出サービスを利用したり、病院受診の送迎や付き添いも行っている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に書道の先生や推進委員の方に訪問して頂き、集中して取り組まれる姿があったり、委員の方と話をしたり、歌や紙芝居、手遊びで生き生きとした時間となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、以前からお世話になっているかかりつけ医に受診して頂き、口頭だけでなく手紙で状況を伝えている。皮下注射の開始の際は、家族・医師看護師と相談しスムーズな治療開始に努めた。	以前からのかかりつけ医を家族同行で受診している。受診前後は口頭や手紙で情報交換している。必要に応じ事業所からも直接電話やファックスするなど医師や医療機関との関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と様子が違う時や変化が見られたときは、看護師に伝え処置の方法やスムーズな受診となるよう必要の有無を判断してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書や処方箋を用意している。面会時は家族や病院関係者に治療の状況や、経過を確認し退院の運びが不安なく早くなるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	老衰や認知症が進み不安が強く日常生活を送ることが難しい方には、家族に付き添って頂き安心できる方法を相談したり、早くからGHで出来ることを伝え意向を聞きながら、今後の方針と支援方法を決めている。家族の不安が募らないように努力している。	契約時に事業所の方針を伝え文書にて確認している。状態に応じ早い段階から本人・家族と話し合い、医師の協力を得ながら全職員が方針を共有している。終末期には家族が寄り添い一緒に過ごせるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や手順はどうしたらいいのかわ、実際にロールプレイで勉強し学んでいる。心肺蘇生法や救助の方法を消防署員から学ぶ機会を作った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜問わず、様々な状況での災害を想定し、自主防災訓練を行っている。最低でも年に一度は、地域の方も参加いただき訓練を行い、助言や協力体制が得られるよう努力している。	火災地震・水害など昼夜を想定し訓練している。利用者や家族、地域住民や行政が参加し、訓練後は問題点などを話し合っている。災害に備えた備蓄もあり、地域と避難受入れの協定を結んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いに寄り添うことや伝わりやすい声のかけ方を心がけている。更衣や排泄などで傷つくような言葉かけとならないよう配慮している。	職員は一人ひとりに合わせた話しかけや言葉使いに気を付けている。昼間すべての居室扉が開けられていたり、脱衣場や浴室扉を開けたまま入浴介助を行ったりしていた。	居室・浴室など利用者のプライバシーが確保されるよう、全員で話し合うことを望む。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1対1で話を聞くことで思いを言いやすよう、慌てさせることが無いよう、ゆっくりの口調や態度を心がけている。言葉が出てこない方や、思うように伝えられない方でも表情や単語などで読み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に出かけたいと思われる時には、出来る限り付き添いをしている。体調やその日の気分によって、食事や入浴の時間をずらすなど本人の思いを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で服を選べれるような声かけや、お洒落をされている時には似合っているよと伝えることで、誇らしげな場面となっている。化粧をされる方には続けられるよう声をかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理が得意な方には作って頂ける機会を作り、皆で頂くことでやりがいにつながっている。GHで収穫できた野菜で、漬物や煮物を職員が教えてもらいながら作ることによって話題作りとなっている。	主の献立は職員が利用者の好みなど聞きながら業者と話し合い作っている。汁物などは育てた野菜を具材にして利用者も手伝って作っている。おやつ作りをしたり外食したりして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせ、随時形態を検討したり、食べられるものを提供している。水分がなかなか取れない方は寒天などで補えるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の口腔内の状態に合わせてジェルやスポンジ、舌ブラシやフレッシュクレンズを合わせ使用している。必要時は仕上げ磨きを行い清潔に保てるよう支援している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを観察し、用具や声かけのタイミングを検討している。一人一人の力に合わせ出来る方にはトイレでの排泄が行えるよう支援している。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせて声掛けのタイミングを見極め、トイレに誘導している。夜間もパットの大きさを変えるなど工夫し、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、ヨーグルトやヤクルト、寒天や野菜ジュース等で個々に合わせ提供し排便を促している。散歩したり、家事作業や体操を通して体を動かせる機会を大切にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りたいと希望があった時には出来る限りその時に入れるよう対応している。リフトを使い安全にゆったり入られている。気分がのらない時は時間をおいたり、翌日にするなどし対応している。	個浴と2・3人が一緒に入れる浴室があり、希望の時に入れるよう支援している。浴槽から花が咲いた庭が見え、柚子や菖蒲を入れるなど季節を感じながら入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンや夜間の睡眠の質を把握し、希望や必要に応じ休息や昼寝をしている。寝る前には、テレビの音量や照明など適切な配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録に最新の処方箋を入れ確認できるようにしている。追加薬の時は記録し申し送りで伝え周知している。薬の副作用はないか、バイタルチェック、皮膚観察をして必要時は看護師、薬局に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「天気がええで洗濯干さなあかんね」「食器拭くで持ってきて」と、自発的に率先して張り合いとなっている。得意なことに力が発揮できるよう声かけ支援している。利用者同士相談しながら何かを行う姿もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	洗濯物を干しに行くことで、外の空気を吸いに行ったり、足の運動を兼ねている。散歩に行ったり、買い物へ行きたい、おいしい物が食べたい等の話題要望に応じ、計画を立てて外出支援している。または、家族の方に協力を頂いている。	散歩・買い物・菜園の手入れや収穫・洗濯物干しなど戸外に出る機会を作っている。利用者が出品した市の作品展、ひまわりやバラなど季節ごとの花見、大垣祭など希望を取り入れ出かけている。	

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で財布を持ち買い物へ出かけるが、支払いは出来ない方が多く支援が必要となってくる。後見人の方などと相談して使う金額を決めたりすることでお金の大切さを感じる機会となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援し、実際に声を聞くことで安心されている。手紙の返信を楽しみにされている方もおり、返事が書けるよう声をかけたり、投函しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りをつけることで話題のきっかけとなっている。色ぬりの作品や写真を見て話が弾むこともある。室温や明るさは適切か配慮している。	室温や明るさに配慮し、空気清浄器を置いて環境管理している。廊下や居間には行事の写真・趣味の折り紙、習字・絵画作品が飾られている。水槽には亀やメダカを飼って利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	散歩が好きな方は自由に行けるよう声をかけたり機会を作っている。仲の良い方同士座って話をしたり、趣味のぬり絵をしたりと自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや小物は引き続き使えるよう持ってきて頂いている。音楽が好きな方は、ラジカセを持ってこられたり、家族の写真を飾ることで安心につながっている。	筆筒、椅子、机など使い慣れたものを持ち込み、家族写真や絵画、習字、生花を飾っている。畳敷きの居室もあり、以前の生活に近い居室となるよう工夫している。一人ひとりが居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器の方は、手の届くところに置きすぐに使えるようにし周囲の危険にならないよう配慮している。出来る能力を引き出せるような声かけがまだ足りないが、着替えた服を洗濯場まで運ぶなども大切にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福祉会		
事業所名	大東GH なでしこユニット		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地の1		
自己評価作成日	平成29年6月15日	評価結果市町村受理日	平成29年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani_tru&aj_gvosyoCd=2172100832-00&PfOfCd=21&Ver:siOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年8月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

次々と生まれる課題に対し、柔軟に対応しながら個人に応じた支援ができるように心がけている。時間を問わずコーヒーやパンが欲しいと言う方に対しては、パンの購入や家族様に持参をお願いし協力を求めながら、飲みたい時食べたい時に提供できるように用意している。食べる時間帯や1日の摂取量によっては、提供する量を調整しながら、個々の思いや願いを大切に支援を頑張っている。故人に水やお菓子などを、お供えの習慣がある方は、運ぶ際に水などがこぼれ転倒の原因とならないよう、こぼれにくいコップを用意し、供養して頂いている。好きなこと・得意なこと、出来ること・性格を把握し、職員と一緒に雑談しながら様々な家事を行うことで、ハツツとした表情や笑顔がみうけられる。残存機能の維持だけが目的ではなく、より良い人間関係を築くための支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに、職員の意見を参考にしながら、毎年事業目標をたて定期的に振り返り反省ができるようにしている。ただ、向上はみられず、現状維持することで精一杯である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	たまの外出や、散歩で出会うと挨拶を交わし、気軽に声をかけ合えることを大切にしている。夏休みになると、子どもたちと共にラジ体操を行い交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	東前のいきいきサロンや、介護予防教室の開催時、利用者も一緒に参加し体操や認知症の理解を得られるよう関わりを続けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	経済的な負担や徘徊があり心配が増強してきたなど相談を受け、よりよい可能性を提示し関わることが出来た。地域の方からの意見交換を含め、サービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着運営推進会議に行政の方も出席して頂き連携しながら、また生活保護等の相談を続けている。より良いサービスを行えるように協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠などせず、外へ行きたい、事務所へ行きたいと訴えのあった時は、可能な限り引率し納得のいくよう支援している。行動を制限することだけが拘束と思わず、言葉での制限や施錠することも拘束となる為、勉強会を通して理解や意識を高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	交替勤務ですれ違う環境であり、相手を理解することや、把握することは難しい。個々に声をかけ、皆で守っていけるよう職場環境を整え頑張っている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	経済的なこと、財産についてなどの相談があった場合、制度の利用説明や情報提供を行った。今後も対応できるよう職員の意識づけや制度の勉強が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各ユニットの特徴をつかみ、ソフト面・ハード面を考慮し利用者の生活環境を整えられるよう努めている。介護量が安定することで、安心して生活継続でき、家族利用者の思いを汲み取り対応ができるよう頑張っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置を行っている。面会やカンファレンスを利用し、何気ない日々の様子を伝え良好な意見交換ができればよいとしている。内容により要望や思っている事を把握し、業務に反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議、ケース会議で提案された意見より対応が難しいことについては、上司へ相談し指示を仰いでいる。ただ人員不足や業務の改善などの解決に時間がかかることについては進んでおらず課題が残る。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	慢性的な人手不足により職員間での疲れがみられる。ユニット内で声をかけ助け合って業務が行えるよう努めているが、利用者とともにできる家事作業を楽しむ時間が減少しつつあり改善が必要である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に応じ、法人内外の研修を促し学んで実践できるよう取り組みをしている。新入社員に対し、学びのシートを活用し育成に関わる職員が共通の認識で対応できるよう頑張っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会や、協議会支部会、情報交換会に参加し交流の機会を持ち向上を目指している。近隣のグループホームと協力し合同家族会が開催できるよう取り組んでいる。介護職員レベルだと交流の機会がない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で性格、物事のとらえ方など聞き取り、GHでの生活を送る上でヒントとなるような対応をしている。まずは顔見知りとなるよう、何度も話しかけ緊張を取り除くことから始め、関係が良好となるよう頑張っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お互いが理解し共通の理解で関わりを持って頂くため、些細なことも気に留め、面会時など利用し職員から伝えている。本音で話せるよう日頃より話しかけを多くし、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方にとって何が最善なのかを話し合い、色々な方法があることを説明、相談し実現を目指している。サービス導入時期を検討し、その方の気持ちや、取り巻く環境を見極め実施へとつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なことや、強みを生かし過ごすことで、お互いを認め支え合いの関係の構築に努めている。人生の先輩より教えて頂くことも沢山あり励みとなっている。感謝の気持ちを伝え良い関係を築いてきている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	困っている事や、悩みを知り共に考え、支え合い生活が送れるよう働きかけている。家族にしかできないことも理解して頂き、歩み寄りながら面会時には挨拶に加え状況を説明し良好な関係作りを目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、入院している夫に会いたい、墓参りや外出、外食を継続しご家族に協力を頂いている。お互い気を重ね行動範囲に限りはあるが、今出来ることを可能な限り行い、良い思い出作りとなるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように職員が間に入り、気の合う者同士席配置を考えたりし柔軟に対応している。口論やトラブルが多いが、平穏な時に理解を得て暗い雰囲気にならないよう対応している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居が1件あった。生活に慣れるまでは情報提供などやり取りを密にし、家族との関係性も今まで以上となるよう関わりを持てた。地域で愛される施設を目指すためにも関係継続は必須であると考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思を優先し無理な声かけは控え、気持ちを大切にしている。主張が強い方、そうではない方と様々なため、その方にあった関わり方が出来るようにしている。今困難な場合にもしっかり検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面談で生活の様子を聞き、職員間で理解・共有するよう努めている。日頃の会話よりいかにせる内容をつかみ、ケアに臨めるようにし、入居してからも不明な点を、家族へ尋ねる取り組みをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムをつかみ、無理なく共同生活へ中心をおけるよう配慮している。その方の得意なところ折り紙や編み物で、力を発揮してもらい、体の具合や気分など状態把握に努め生活できるように関わっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に一度モニタリングを行い評価し、新しい課題に対し職員間・リーダーに相談や検討をしている。その内容を利用者・家族とカンファレンスで討議し計画へ反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と変わった言動を記録に残し、今後の対応や変化改善があれば、共有できるように話している。ただ根拠が伝わらなかったり、次へつながらない事もあり、浸透するまでに時間はかかる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族本人の希望や状況に応じ関わられるよう努めている。リハビリや集団レクがなく不安に感じる家族もおられたが、GHの特徴や生活の場であることを理解して頂き、家族が関わられることで頑張ってもらっている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼保育園との交流、三城地区推進委員の関わりを続けている。外へ向けた活動が減少したが、インフォーマルな部分で、家族の力をかり関わりが増え良い仕組みが続き、本人様らしく生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力のもと受診や往診を行っている。有効な情報の交流が出来るよう、電話や手紙を用意し提供をしている。結果を把握する事が困難な時もあり、確実なものとなるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の事に関し不安や心配に思う事は共有し看護師へ相談している。指示を仰ぎ実施し緊急的か否かを見極め関わっている。排便が滞ったり、風邪気味の時、処置の継続性などささいなことでも相談しやっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ早期に退院できるよう、治療が終わり次第、医療機関や家族も含め話し合いを重ね、退院後受け入れ可能かよりよく暮らせるよう随時検討をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と幾度も話し合い寄り添いながら、GHで出来る限りのことを行い取り組んでいる。食欲低下や著しい体力低下に伴い、現状の報告から今後の起きうる状況を説明しつつ、理解を得ながら終末期の方針を決め支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	バイタル測定や食欲や表情を観察し体調の変化に気を配り、急変や事故予防に備え対応できるよう頑張っている。時期をみて勉強会を開き職員へ周知できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春と秋に防災訓練を行い、災害対策や避難がスムーズに出来るよう努めている。自主防災訓練を随時することで意識づけている。全職員の周知が難しく課題である。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉を使い分け、適切な表現ができるよう心がけている。話の内容によっては場所を選び対応できるようにしている。周りの方に気を配りながら、心を傷つけるような言葉使いや態度を避けるように努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の少ない方には、時間や季節等の近況の様子、昔の生活歴に応じた好み話しをし刺激となるよう関わっている。その他の方へは日頃の会話を通して思いを伝えられなるべく意に添うよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	約半分の方が自分の意志で時間を見てやるべきことは行い、合間を見つけ1人で過ごす時もあり、バランスのとれた生活が維持できるよう見守りしている。働きかけが必要な方は、気分や体調に合わせ対応できた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の身だしなみは勿論の事、外出や受診の際整えられるよう一緒に選んだり、相談し個別に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	汁物作り、盛り付け配膳など役割を持ち協力できる場を作り助け合っている。好き嫌いを把握し、代替え提供できるものを検討し対応している。行事や焼きそば作りなどは、準備の時から楽しく会話が増えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の増減、体重変化に気をつけ一日を通して効率の良い栄養と水分が摂れるよう対応している。好物や栄養補助食品を提供し補食に心がけてる。大きいと感じる物にはカットしたり時々に応じ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯医者より歯科検診を行っていただいたり、道具の種類も考え、毎食後歯磨きを行えるよう関わり、口臭の予防や舌苔の軽減、残渣物の除去に努めている。義歯の不具合等はないか、管理観察し適宜対応している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	意思を大切にしている。トイレに向かわない方に対し、行動し始めの際トイレに促す等随時対応で排泄できるよう働きかけている。かぶれや汚染の程度により、オムツの種類や時間を変更したり、陰部洗浄対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事、水分補給を行い家事作業中心に、適度に体を動かせるよう足こぎムース等で運動に努めている。牛乳やバナナ、野菜ジュレの自然食品を組み合わせ便秘予防や改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	少ない職員の中で出来る限りの事をしてい。入浴を拒む方がどのタイミングで声をかければ良いか考え気持ちよく入れた時の様子を口答か記録に残している。次も受け入れられるとは限らず苦慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を充実させる事は必要であるが、今日の体調を見て随時休養を促している。昼夜逆転傾向の方もいるが夜間の安眠となるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容変更時は特に注意し、記録へ残せるよう努め状態の把握をしている。呑み込みの確認方法、形状を観察し対応している。必要時には医師に相談している。飲み忘れや配薬ミス等ないように確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事を中心に張り合いの持てる関わりをしている。行事は減ったが楽しみの一つとなるよう参加を促している。個々の役割は様々だが、その方がユニットに必要であることを理解できるよう関わり伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員不足もあり外への外出は減少している。家族の協力も得られ今年も大垣祭りへの準備ができたがあいにくの雨天となった。個々の墓参りや仏壇への供え物を買うため出かけるなど家族と共に助け合い実施できている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病気の事もあり、無駄な出費とならないよう調整をしている。自由にならず不満を持たれている方には、随時確認と説明を重ね理解をしていただけるよう努めている。お小遣いの範囲で買い物などの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	困っていたり何か安心したい時など、随時電話相談や関わりを持っている。家族の協力もあり定期的に電話をかけて頂き世間話ができる環境も整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には利用者が作った折鶴を飾ったり、写真を貼っている。机や椅子の配置を変え利用者が動きやすく、職員が見守れるよう工夫をしている。居室の入り口には個々の作品や気に入った物を飾り個別化している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と交流の支援をしたり、他のユニット間でやりとりできるよう、行動を制限せず自由に動けるよう努めている。もちろん1人の時間も大切に出来るよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れ親しみのある物を持ち込み、環境の変化を最小限とし安心できるよう努めている。居住スペースも畳の利用、思い入れのある家族との写真を飾ったりと心地よい物となるよう部屋作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	意思表示を出来る方は、随時どうしたいか気持ちに配慮し、自立支援を目指している。支援がほぼ全面的である方は、状態が低下しても設備を整えて安心できる環境になっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福祉会		
事業所名	大東GH すずらんユニット		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地の1		
自己評価作成日	平成29年7月1日	評価結果市町村受理日	平成29年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2016_022_kani_tru&ki_gvosyoCd=2172100832-00&PrEfCd=21&VerSionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年8月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年に引き続き入退居が続いた。利用者さんの安心安全を第一に考え、どうしても職員が目がないときに離設してしまわれる方のユニット移動も行い、新しい顔ぶれでの生活となっている。顔ぶれや環境が変わっても安心して生活できるようにユニット間で連携をとり頑張った。一人一人のできる力を見つけ、力を発揮できるように働きかけ、お互いに支え合いの生活をしている。畑や花壇へ行き作物などの成長や収穫を楽しんだり、花を摘み遺影に飾ったりするのを続けられるよう声かけ支援を大切にしている。一緒にゲームをしたり絵をかいたりし、集中できることを見つけ共に楽しく過ごしたり、笑顔や笑いが増えるよう関わりを大切にしている。今後も急変時の対応の仕方や看取りについて家族や医療連携を大切にしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念や事業目標は、分かりやすい所に掲げ、普段から意識できるようにしている。毎月のチャレンジシートで事業目標の達成度を振り返り次月へつながるよう目標を立て取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校や保育園へ運動会を見に行き参加し楽しむ事ができている。町内の溝掃除や廃品回収の協力、カルチャーホールの開放を行い挨拶を大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏休みには地域の子供達と一緒にラジオ体操に参加していただいている。介護予防教室に利用者の方も参加させていただき理解を得られるよう関わりを大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	食べれなくなってきた方がみえたりし、医療との連携や特養との連携、看取りの体験など現状の報告や悩みについて、アドバイスや意見をもらうことができ、今後に活かせるよう、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や防災訓練に参加して頂き、日々の取り組みを伝えたり、助言やアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を施錠せず所在の確認を行っている。しかし、目を離れた時に一人で外へ出て行かれてしまった時もあり、見守りの仕方居室移動も含め行った。スピーチロックを日々の中で行っていないか勉強会を通し振り返りを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、理解を深め業務に取り組んでいる。職員同士声を掛け合い、交代するなど協力をしている。お互いに注意し合えるよう取り組んでいる。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方もおり、サービスや制度を理解し支援が出来るよう対応している。必要な時には関係者と話し合いをもって		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には分からない事や不安が残らないよう、丁寧な説明を心がけている。日々の生活の中でも不安な事や疑問に思われる事は分かりやすく説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会など要望や意見交換ができるよう努めているが、本人や家族の思いをなかなか聞きとれていない場面もあり、認知症の理解をより一層大切にし関係作りに努めたい。言いにくいことなど、意見箱の設置がある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議で提案や要望をできる機会がある。意見について業務の見直しや改善につなげている。人員確保など、すぐに解決できない点は進んでおらず課題である。休憩確保は出来たがしわ寄せも来ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務時間や業務内容の見直しを行い、スタッフ同士声を掛け合い休憩がとれるようになった。人員不足により疲れがみられており、互いに助け合い業務に取り組んでいる。人員確保が課題である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議やGH会議において、事故防止や介護技術、感染予防などの勉強会を行い、日々の業務に生かせることを学んでいる。一人一人に合わせた外部研修には参加できておらず課題となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの方と一緒に合同家族会を行えるよう取り組んでいる。情報交換等に参加し他施設の良い所は取り入れサービスの向上や工夫をしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活の様子や性格など聞き取り、会話のきっかけ作りやヒントとなるよう対応している。話を聞き顔見知りとなり、信頼関係が作れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には日々の様子や状況について説明を行っているが医療への不安もあり、良好な関係作りに戸惑うこともあった。本人や家族の意向を聞き今後も把握に努めたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の事情や関係性を把握しサービス開始を見極めている。出来る限り自立に向けた支援を行い安全に配慮し、目配り気配りを大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や畑仕事、花を育てるなど得意な所で力を発揮して頂き、知恵を教えていただいている。野菜等の収穫を楽しみとし、お互いに助け合いを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には挨拶に加え日々の様子も伝え関係づくりに努めている。食が細くなった方には好きな物を差し入れて頂き、電話で安心できるような声をかけて頂くなど協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を頂きながら、外出や外食をされ、家族みずいらずの時間を過ごされている。知人の方や面会者と一緒に外出される機会も大切にし関係が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士過ごせるよう席配置に気を配っている。家事作業等出来る所で力を発揮し助け合ったり、教え合う姿がみられている。耳の遠い方も、会話の橋渡しをしお互いの思いが伝わるよう努めている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の方が困らないよう、その時々で一番良い方法ができるまで、話し合いを持っている。安心して次の生活の場へ移れるよう情報提供を行い、退居してからも関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	遺影の花を花壇へ摘みに行ったり、畑の手入れや、絵画が続けられるよう道具の準備や環境の設定を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談を行い生活歴や習慣環境について聞き取っている。家族の方に協力を得てアセスメントシートを活用し、生活習慣や暮らし方を把握し、ケアに繋げられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムをつかみ、体調の変化や気分に合わせて休憩し、一人で過ごす時間を大切にしている。周りの方と協力しながら得意な事が発揮できるように努め、変化のある時には記録に残し共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い本人や家族に参加していただき、現状の共有や課題について話し合っている。退院後に気をつけていく点や看取り等の家族、医師との連携方法等、ケアへ反映できるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気になることを記入し、今後の対応をモニタリングし、見直しを行い改善できるよう努めている。対応の変化がある時は申し送り職員が周知できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病状により医師の指示のもと、訪問看護を利用している。薬に配達や成年後見制度を利用し必要なサービスや支援を受けられるよう連携を図っている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園や幼稚園の交流や地域民生委員の方と関わりを持ち続けている。資源回収や溝掃除など、地域の行事に参加し理解を求めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際、手紙を渡し情報提供をしている。度々の受診となり家族の負担になることもあり理解を得ることが難しいケースもあった。出来る限り希望にそえるよう話し合いを行い、良い方向へ向くよう取り組んだ。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルや表情の変化、訴えを聞き都度看護師に相談連絡をしている。必要に応じ家族へ受診協力をお願いしている。訪問看護を利用している方も連携を図り良いアイデアを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行っている。面会へ行き医師や看護師から説明を受け、早期退院に向け連携が持てるよう努めている。退院時は今後の生活に気をつける点を聞き対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へ報告、医師と連携をとりながら出来ることと出来ない事の理解をいただいている。家族の気持ちを確認をしながら希望に添えるよう対応した。うまくつなげられなかったケースもあり、医師への伝え方や働きかけの必要性を学んだ。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々健康チェックや食欲、表情を観察し、異常の早期発見に努めている。勉強会で心肺蘇生法や急変時の対応の仕方を学び、実際に起きると慌ててしまうこともあり、今後も実践し身に付けていく努力は必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方や家族の方にも協力をいただいている。自主訓練も色々な想定で行い、安全に早く避難できる方法や、避難の順番を検討や工夫して実践している。情報収集の仕方や、水囊の設置の仕方を学んだ。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手に合わせ声の大きさやトーンに気をつけ、不快にならないよう心がけている。個々に、居室や他の方が不快にならない所で話をするなど配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から希望や思いを聞き取り、選択肢を出したり思いを伝えるよう、焦らず会話をしていくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気分や体調に合わせて無理なく、ゆったりと過ごせるよう声をかけ個々のペースを大切にしている。外へ行く時には付き添い、行けない時には納得のできる説明を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水を使い手入れができるよう支援している。外出時は化粧ができるように声をかけている。どの服の色が着たいか一緒に選んだり、スカートを好んで履かれる方もみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	汁物作り、盛り付けは、できるところで力を発揮していただいている。畑で収穫したものを汁の具材にしたりし、一緒に味わうことで、話題の提供や楽しく食事ができるよう心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて形態の見直し、バランスよく食べられるよう声かけ見守りを行っている。家族の協力を得て、好きな物で補食を行いこまめに水分が摂れるように声をかけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行えるよう声をかけている。義歯を外し、洗っていただき、残留物が残っていないように努めている。不具合がないか確認し歯科医の往診時に伝え対応している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り下着を使用し、トイレで排泄できるように支援している。パターンに合わせ、失敗の多い方は早めに声をかけている。個々に合わせたオムツの種類や時間帯をかえ対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトや牛乳、ヨーグルトなどの自然食品や水分を少しでも多く摂っていただいている。家事作業やラジオ体操を行ったりと、自然に体が動かせるよう声をかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に合わせて順番をかえたり湯船につかり季節の花を眺めながら、ゆっくり入れるよう工夫している。希望に合わせて、入浴順を変更したり声かけにも配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態に合わせて、日中眠気の強い時には無理なく休めるよう声をかけている。個々の体調や夜間の睡眠に影響しない程度で休憩をすすめ、安眠への支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の変更がないか内容を確認し記録に残している。状態の変更がないか観察し医師に報告や相談している。錠剤が難しくなった方には内服しやすい形にできないか相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵が好きの方には道具や題材を準備し描ける環境を作ったり、外へ出て花や野菜の世話をし成長が楽しみに出来るよう関わっている。パズル等達成感が味わえるよう声をかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はなかなかできていないが誕生日など、食べたいものや行きたいところを聞き希望に添えるようにしている。家族の協力を得て外出して頂き一緒に家族と過ごせるようにしている。欲しいものがある時は、話を聞きでかけられるように努めている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く際、財布を持参し自身で支払いができるよう関わり、満足につながる支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話のやり取りがうまくいくように会話の橋渡しをしている。家族へ年賀状を出してつながりを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾り季節を感じられるよう環境作りを行っている。畑で出来た野菜を収穫し味わっている。水槽に生き物を飼い楽しみになっている。明るさや空調にも配慮し気持ちよく過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と過ごせるよう、席配置に配慮している。自席以外にも座れる所を作ったりカルチャーホールでゆっくり過ごし一人の時間も大切に出来るよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用していたタンスや座椅子を持ってきていただいている。小物も用意し、習慣となっていたことが続けられるよう努めている。遺影やお花を飾ったり、心のよりどころとなれるよう空間作りに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きめの表札を作り分かりやすくしている。カルチャーホールに自由に行き来できるように配慮している。所在の把握を行い事務員と連携を図り見守っている。		